児童生徒の「学ぶ力」育成通信　NO.10
岡山県教育庁義務教育課
令和7年2月20日

「〇〇たい！」を引き出した総合的な学習の時間の取組
～味野小学校と久米南中学校の実践から～

©岡山県「ももっち」

岡山県教育委員会では、岡山型PBLの普及促進を図るため、令和5･6年度に推進事業を実施しました。今号では、本事業の研究校である倉敷市立味野小学校と久米南町立久米南中学校が取り組んできたことと、学びをさらに一歩先へ進める【視点】について紹介します。

「岡山型PBL」とは

PBL（Project Based Learning）は、児童生徒が自らの課題を見付け、その課題を自ら解決する過程を通して、課題解決に必要な力を身に付ける学習方法です。岡山型PBLでも、子どもたちが自らやってみたいと思えることを見付け、地域と関わりながら探究的に学ぶことを大切にしています。

「岡山型PBLガイドブック」

倉敷市立味野小学校

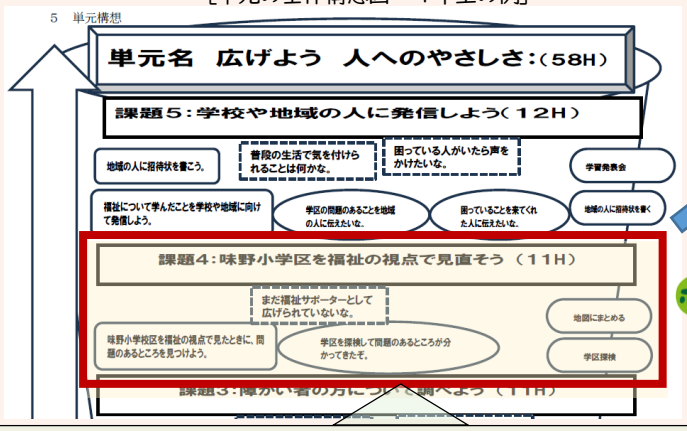
研究主題　他者との関わりから、自分事として課題を捉え、粘り強く探究する子どもの育成
～岡山型PBLの考え方を活用した実践を通して～

全体構想図に加えて各小単元の評価規準を作成しているよ。

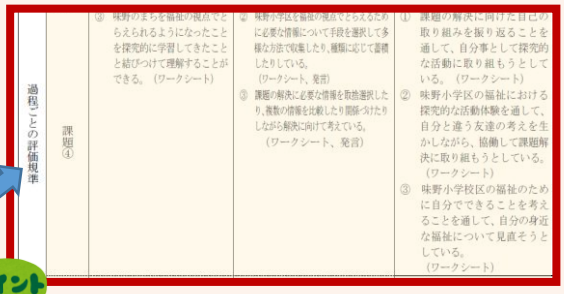
［児島をPRする歌とダンスを披露する児童］

【視点①】独自の単元構想図の作成

［単元の全体構想図：４年生の例］



［各小単元の評価規準］



ポイント

小単元ごとに評価規準を示すことで、身に付けさせたい資質・能力をより明確にする。

子ども主体の取組にするために、次の課題につながる子どもの言葉 [　　] や、子どもの気付き・考え (　　) を軸に単元の全体計画を立てる。

【視点②】子どもの実態を基に伴走者の役割を確認して指導

子どもの実態に応じて時には導き、時には見取りに徹しているんだね。

教員は意図に応じて子どもの探究の方向性を修正し、目的やターゲットについて助言する。
【「半歩前」で伴走する姿】

［児童が発案した企画の意図を聞く場面］

［互いの成果物を評価し合う場面］

教員は主体的な学びを価値づけたり下支えしたりするために見取りに集中する。
【「並走」、「半歩後ろ」で伴走する姿】

校長先生より

内部校長先生

課題解決のために必要な力（＝情報収集や他者との協働等）や、地域社会に貢献しようとする力が子どもに付いてきています。地域貢献や主体性に関するアンケートの数値が伸び、子どもの行動変容にもつながっていると感じます。 子どもから「～したい」という意見が出始め、それを実行するために、どう行動すべきかについても考え、**対話を通じて提案できる力**が付いてきています。

久米南町立久米南中学校

研究主題　主体的に学習に取り組む生徒の育成
～主体的な学び 対話的な学び 深い学び～

[地域の方と一緒に実践を振り返る場面]

【視点①】ルーブリックを活用して、身に付けた資質・能力を確認

資質・能力			step 1	step 2	step3
知識・技能	概念的な知識の獲得	・事実に関する知識を関連付けて構造化し、統合された概念的な知識を獲得している。	地域の課題が自分にも関係があると理解できる。	持続可能な地域の実現には多様な問題が存在していることや、地域の人・資源には限りがあることについて理解できる。	持続可能な地域の実現には多様な問題が存在していることや、地域の課題解決のためには様々な取組とそれに携わる人々の思いがあることを理解できる。
	自在に活用することが可能な技能の獲得	・特定の場面や状況だけでなく、日常の様々な場面や状況で活用可能な技能として身についている。	情報を集めることができる。	複数の情報を集める方法として「聞く」「調べる」「体験する」など様々な方法を考え、実施することができる。	目的や対象に応じて、複数の情報を適切な方法で活用できる。
	探究的な学習のよさの理解	・探究的な学習の良さを理解し、学習が生活とつながっていることを理解している。	探究的な学習のなかで自分で考えたりまとめたりすることの大切さを理解できる。	自分で考えたりまとめたりする学習は、自分を高める学習につながっていることを理解できる。	自分で考えたりまとめたりする学習は、自分を高めるとともに、自らの行為が未来社会につながっていく学習であると理解できる。

○久米南中学校の生徒が取組を振り返る方法

・年に３回ルーブリックに基づいてStep１からStep３までの「どの段階の力が身に付いたか」を自己評価する。

・年度末に「その力が付いたと思う場面」を具体的に記入する。

ポイント　ルーブリックは生徒の取組状況を見極めて、適宜修正をかけることが大切です。

【視点②】子どもたちからの働き掛けによる「実践」を重視

後継者不足で地域に耕作放棄地が増えてきたぞ。

地域の方

耕作放棄地に花を植えて皆に愛される風景にしたい。

やってみよう!
生徒

[耕作放棄地を活用する実践]

曲がって育ったキュウリは、商品として出荷できず困ったな。

地域の方

廃棄予定のキュウリを、生かす方法を探してみたい。

やってみよう!

[キュウリを使ったレシピを考える実践]

地域の実情に寄り添いながら自分たちの思いや願いを具現化する実践に取り組んでいるんだね。

校長先生より

菅原校長先生

「久米南学」の各プロジェクトや学校行事等で、生徒は課題を把握しながら**参画意識をもって取り組む**ことができるようになりました。生徒は、実践してうまくいかないことや失敗したこともありましたが、自分の学習過程を自分自身で振り返り、何が足りなかったのか考えることを繰り返すことで、新たな取組を提案する力や次の取組に挑戦する力がついてきています。

学びを一歩先へ！

岡山型PBLで重視されている「振り返り」ですが、子どもに感想を書かせて終わりとならないことが大切です。そこで、学びを一歩先へつなげるための効果的な視点について紹介します。

[PBLガイドブックは、県教育委員会HPに掲載中]

生徒の振り返りは、どんな視点で行うと効果的でしょうか・・・？

A. 次のことを意識して、単元の適切な場面で取り入れてみましょう。

こうした方がよいのでは？

もっとこうしてみたら？

振り返り①

表現・まとめたことに対して他者からのフィードバックをもらう場を設定する。

→探究の方向性や表現の在り方を修正することができます。

なるほど、そうすればいいのか。

振り返り②

教師が身に付けさせたい力を意識して問い掛けたり、視点を示して振り返りを行わせる。

→自分自身にどんな力が付いたかを自覚することができます。

～がわかった。
（学んだことを使って）次は、～みたい。